

H003 京大で学ぶ人文学	
英名科目名	
大学名	京都大学
連絡先	文学研究科教務掛 TEL:075-753-2809 FAX:075-753-2719
担当教員	京都大学文学研究科 教授 松田素二 京都大学文学研究科 研修員 TOJIRAKARN, Mashima 大阪大学COデザインセンター 特任助教 菅原裕輝 京都大学文学研究科 非常勤講師 別役透 京都産業大学 非常勤講師 長岡徹郎 京都大学文学研究科 非常勤講師 孫・片田晶 京都大学文学研究科 非常勤講師 白川晋太郎 京都大学文学研究科 非常勤講師 GUILLAUME, Admiral
開講期間	2018年09月27日(木)～2019年01月17日(木) 5講時 16時20分～17時50分(毎週曜日本)
開講形態	後期・秋学期 開講曜日・講時 木曜日 5講時
単位数	2 履修年次 1-4回生
会場	キャンパスプラザ京都
授業定員	30
単位互換生定員	京カレッジ生定員 0
試験・評価方法	平常点60点+レポート40点(ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない)
超過時の選考方法	最大60名まで受講可能の見込み、先着順
受講料	
別途負担費用	
その他特記事項	
パッケージ科目	
低回生受講推奨科目	
講義概要・到達目標	
<p>授業の概要・目的</p> <p>本授業は、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者が各自の研究内容に即して人文学の基礎的な考え方についてリレー形式で講義を行うものである。</p> <p>現代の日本社会では民主主義の基本的な理念として自由意志が尊重される。しかし、自由なはずの生活に数えきれないほどの「～べき」や「～でなければならない」が存在し、私たちを振り回している。合理性に基づいて形成されている社会においてはある種の規範性が生じるが、そうした規範性は権威化されるにつれて不合理性と結びついていく。このような社会のあり方を我々はどうのように考えればよいのか、その問いに直面した時、規範性の原点に立ち戻る必要がある。</p> <p>そこで、社会的な規範によって権威づけられた対象、制度といった、いわゆる「エラそう」なものに着目し、規範性にまつわる諸問題を倫理学、心理学、宗教学、社会学、言語哲学などの多様な切り口から紐解いていく。異なる分野の講義を連続的に受講する中で、人文学的な観点から社会を考える面白さを学びながら、日常的な悩みや諸問題を論理的に分析する方法を習得してもらうことが本授業の目的である。各回の授業では、グループディスカッションなどアクティヴ・ラーニングを活用する。議論を経て答えを導き出す経験を積み、学術的な論文執筆の方法に触れることにより、知識を実践的に活用する能力も養ってもらう。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが置かれている社会的な状況を客観的に捉え、より広い視野と深い洞察力をもって、現実の諸問題に対する解決策を論理的に模索できる主体となる。</li> <li>・主体的な学びの方法を学ぶことを通してその重要性和面白さを実感してもらいながら、知識を実際の生活のあらゆる場面で活用する「応用・実践」の能力を身につける。</li> </ul>	
講義スケジュール	
[1] イントロダクション(松田)	

[2] メディアと規範：あらゆる規範を内面化している私たち(トジラカーン)	
研究参加の倫理(菅原)	
[3] 研究参加の是非	
[4] 研究の倫理的妥当性	
心的時間旅行の比較認知科学(別役)	
[5] 動物は「思い出を語る」か？	
[6] 動物は「先を思い描く」か？	
日本における宗教(長岡)	
[7] 私たちの心は一つなのだろうか？	
[8] 日本で宗教は必要なのだろうか？	
エスニシティの社会学 「在日朝鮮人」を事例に(孫)	
[9] エスニシティとは？(ある人が「人である」とはどういうことか)	
[10] 「民族」「人種」を疑い、自分らしく考えよう	
虚構としての言語の規範性(白川)	
[11] なぜリングは「リング」と呼ばなければならないのか？	
[12] 「なければならない」 規範性の源泉	
論文の書き方と論証の原則(ギョーム)	
[13] 論文の構成	
[14] 論証の原則	
[15] まとめ(全員)	
教科書	授業中に指示する
参考書	授業中に紹介する